
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 69

2010.11.16 (火)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物 アッケシソウ *PSalicornia europaea*

サンゴソウとも呼ばれるアカザ科の一年生草本で、ヨーロッパ、アジア、シベリアなどの亜寒帯を中心に分布する塩性植物。満潮時には海水が入る潮間帯泥底に生育する。日本で



は北海道東部の厚岸湖で最初に報告されたが、オホーツク海側のサロマ湖、オンネトーなどの潟湖に多く分布する。瀬戸内海にも一部分布するが、入り浜式塩田があった時代に北から人為的にもたらされたと考えられている。春に芽生え、秋になると全体が赤く“紅葉”し、見事な景観を作る。瀬戸内海では塩田がなくなったことに伴い、分布がきわめて縮小し、絶滅危惧 (EN) 種とされる。

(岡山県瀬戸内市錦海塩田跡地にて 小西良平氏撮影)

目次 「今月の海の生き物」 アッケシソウ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会の現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 事務局便り
5. 編集後記

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●来年度海洋関連予算 1 兆 2,670 億円 環境には 328 百万円のみ

2011 年度政府予算案に海洋関連の予算が約 1 兆 2,670 億円計上されている。政府の海洋関係を統括する内閣府の海洋政策本部がまとめたものだが、そのほとんどは葉上風力発電開発（経産省）、海洋エネルギー・鉱物資源開発（経産省）、海上防衛力整備（防衛省）、保安庁関連（総務省）、地震防災関連（国交省）、資源管理（農水省）などであり、生物多様性や環境保全には、そのうちのわずか 0.025%、3 億 2 千 8 百万円のみが予定されている。生物多様性条約の COP10 で政府が約束した海洋生態系の保全への取り組みは、やはりこれまでと同じように冷遇されているといえるようだ。

【関東】

●筑西市勤行川にサケ遡上

茨城県筑西市の勤行川に、今年も多数のサケが遡上するのが見られた。勤行川では 5 年前からサケが遡上を始めた。その後、サケの稚魚放流も開始され、毎年サケが多数遡上する姿が街の中でも見られるようになった。今年もサケの稚魚 2 万匹を放流する予定だ。筑西市のロータリークラブや NPO 小貝川プロジェクトなどの団体は、「Welcome サーモン at 筑西・サケおかえりな祭」という行事を開き、遡上するサケを見守り、自然環境に理解を深めてもらおうと市民に呼びかけている。

●オオヒシクイ観察小屋が今年もオープン

国の天然記念物のオオヒシクイが越冬する関東で唯一の茨城県稲敷市稲波の稲波干拓地にある小野川の土手に、オオヒシクイの観察小屋が完成した。オオヒシクイは体長約 90cm の大型のガンカモ類の一種。毎年ロシアから冬になると稲波干拓地に越冬するために飛来する。観察小屋は毎年オオヒシクイの保護のために設置し、オオヒシクイがいなくなる 3 月末に撤去されている。

●希少種クジラが迷い込み死亡

千葉県銚子市潮見町の銚子マリーナ海水浴場に、きわめて珍しいコマッコウクジラ数頭が迷い込み、そのうち 1 頭が浅瀬に乗り上げた。市の職員や近くの千葉科学大学の学生らが沖に戻そうと救出を試みたが、うまくいかず、結局衰弱して数時間後に死亡した。専門家の鑑定によるとクジラは「コマッコウクジラ」で、生きているところを見ることはほとんどないとされる希少種であった。死亡個体は体長約 2m30cm、体重 240～250kg の雌の成体とみられる。

【東海】

●タンカーから油流出か

11 月 11 日、静岡県御前崎沖を航行している船から、「海に油が流れている」という通報を受け、清水海上保安部が調査した結果、御前崎の南約 7.2km から西側に幅 100m 長さ 12.6km に渡って油が浮かんでいるのが確認された。この油は近くを航行していたタンカー第 103 菱化丸から流出したと見られる。タンカーは千葉港から四日市港に向けて航行していた。同海保が事情を聞いている。流れた C 重油は海保の巡視船とタンカーが現場の油を拡散処理してほぼ消滅したという。しかし、このやり方は単に目に見えないようにしただけで、海への影響は今後も続くと思われる。

●「生きた化石」ナメクジウオを採集

三重県鳥羽市浦村町の沖で、脊椎動物のもっとも原始的と言われるグループのナメクジウオが採集された。地元の海の博物館が実施している海底生物（ベントス）調査で採集されたもの。採集されたのは体長 4.5cm～5.0cm の 3 匹。アマモ場に隣接する砂場で採集された。伊勢志摩地方では、昨年英虞湾でもナメクジウオが見つかった。ナメクジウオはきれいな砂の海底に棲むことが知られているが、近年の開発、埋立、海砂の採取などによって砂堆とよばれる海底の砂の堆積場所が無くなりつつあり、ナメクジウオの生息場所もきわめて少なくなっており絶滅危惧種に指定されている。

【近畿】

●舞鶴 寺川でもサケが遡上 2 頭を確認

京都府舞鶴市の寺川でサケが 2 頭、遡上するのが発見された。「寺川を美しくする会」の会員が見つけたもので、前回から 5 年ぶりという。今年見られたのは雄と雌の 2 頭で、市街地の中を流れる寺川の下流。寺川はかつては水質の悪化やゴミの不法投棄が目立つ汚い川だったが、最近では小魚の姿も見られるように水質が改善されているという。

【中四国】

●濁川にもサケが遡上始める

島根県川本町因原の濁川でサケの遡上が始まった。濁川は江の川の支流で、サケの遡上が定期的に見られるもっとも南に位置する川である。今年は夏の猛暑のせいかわれ年よりやや遅めに始まった。



●瀬戸内海最大？のアッケシソウ群落

岡山県瀬戸内市の錦海塩田跡地で、いまアッケシソウの“紅葉”が盛りになっている。先号の「うみひろも」で、同じ岡山県の寄島のアッケシソウ群落とアッケシソウ祭りを書いたが、ここ錦海塩田跡地には寄島を上回る規模のアッケシソウ群落が残されている。ここ錦海塩田跡地には浚渫汚泥の投棄計画があったが、予定企業（錦海塩業）が破産し、この度瀬戸内市が2.3億円で購入することが決定したという。以前は企業の土地のため保全もできていなかったが、市の土地になったため、市民は今後市に保全活用など提案していく予定である。

【九州】

●指宿でアマモサミット開催

鹿児島県指宿市のふれあいプラザなのはな館で、「全国アマモサミット2010 in 鹿児島」が開かれ、アマモ場の重要性が強調される一方、各地の藻場造成の取り組みに関する事例が今年も発表された。鹿児島県錦江町の担当者は、07年度から町で取り組んでいる藻場造成について報告した。それによるとアマモの種子の植え付けを行ったが、発芽がなく失敗に終わった経験と、その後の取り組みで発芽に成功したことを紹介した。しかし、全国の取り組みでアマモ場を恒久的に再生できたという話はまだ聞かれない。

【沖縄】

●市長が泡瀬干潟 1 期工事の早期実現を国に要請 市民は反対を民主党に請願

沖縄県沖縄市の東門美津子市長は、民主党や内閣府などを相次いで訪れ、中断している合
わせ沖合埋め立て事業を早期に再開するよう要請した。それに対して、前原前国交相は事
業推進を言明し、民主党もそれを進めることを前提とした対応をしている。民主党の横光
組織委員長は「計画はしっかりと見直されている」と肯定的な評価をした。

一方、泡瀬干潟を守る市民団体などは、民主党や内閣府などに 1 期工事を止めて貴重な
環境を守るよう申し入れたが、民主党はその申し入れに否定的な対応を行った。

2. 海の生き物を守る会 現在の活動と予定

●パタゴニアから助成20万円

パタゴニア アウトレット江坂ストアにて、ボイス・ユア・チョイスというお客様の声
を投票という形にして、地元の環境団体を一緒に応援していく環境キャンペーンを 10
月 28 日まで実施しました。その結果発表会&交流会が 11 日に行われ、海の生き物を
守る会は一位を獲得し、助成金 20 万円を授与されることになりました。

●11月20日 日立環境財団NPO活動報告会においでください

11 月 20 日（土）午後、東京の KDDI 会館で日立環境財団 NPO 活動報告会が開かれます。
2008 年度に同財団から助成を受けた「海の生き物を守る会」でも、活動報告を展示で行い
ます。なお、当日のプログラムは以下の通りです。

日時：2010 年 11 月 20 日（土）13:30～

会場：KDDI ホール（東京都千代田区大手町 1-8-1 KDDI 大手町ビル 2F）

13:00 開会挨拶（日立環境財団事務局長）

13:05～13:20 環境問題最近の動向（生物多様性）

川村研治（地球環境パートナーシッププラザ）

13:20～14:20 受領団体活動発表

15:55～16:10 環境問題最近の動向（地球温暖化）

加藤三郎（NPO 法人環境文明 2 1）

16:10～17:10 受領団体活動発表

17:10～17:20 閉会挨拶

17:20～18:30 交流会

展示は、ロビーおよび会場後方にて12:15～18:30です。ぜひ「海の生き物を守る会」の展示
をご覧ください。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【東北】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

岩手 フォーラム盛岡

11月6日(土)～11月19日(金) 16:15～一回上映

岩手県盛岡市大通 2-8-14 MOSS ビル 5F 019-622-4703 <http://forum-movie.net/morioka/>

■『ミツバチの羽音と地球の回転』上映会&鎌仲ひとみ監督講演会 in 仙台（わかめの会）

日時：2010年11月28日（日）

会場：せんだいメディアテーク 7F(仙台市青葉区春日町 2-1)

開場 9:30 第1回上映 10:00～ 鎌仲監督講演 12:40～ 第2回上映 14:00～

【関東】

●OWS ネイチャースクール（保護者参加）～三浦半島日帰りバスツアー～

このプログラムは、三浦半島の海岸を活用して実施する1日のコースで、海辺の自然観察と生きものしらべ、クラフト教室を組み合わせたOWSオリジナルのネイチャースクールです。今回のネイチャースクールでは、小学生から高校生までの子供、そしてその保護者もいっしょに参加いただけます。新宿駅西口から大型バスで出発します。ご家族やお友達を誘って、この機会に海辺に出かけましょう！

開催日 2010年11月28日（日）日帰り

募集人数 30名

参加費 2,000円／1名（クラフト材料・教材・保険代）

集合場所 新宿駅西口 7:30（三崎口駅集合も可。ただし料金は同額です）

詳しくは、ホームページをご覧ください。

⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/index.html#NS1128>

チラシ（PDF） ⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/NatureScool2.pdf>

●OWS 海のトークセッション 「カイメンの多様な世界」

ゲストスピーカー：伊勢 優史（東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所・特任助教）

皆さんは、「カイメン」と聞いて何を想像しますか？女性なら身体を洗ったり化粧に使う海綿を思い出す方もいるかもしれません。カイメン（海綿動物）は、最も祖先的な多細胞動物と言われており、我々動物の進化を考える上で極めて重要な生き物です。また、抗ガ



ン剤等に利用できる有用天然化合物を生み出す生物資源としても注目を集めています。しかしながら、生物学の教科書ですら、ごくわずかな紹介しかされておらず誤解されることの多い生き物とも言えます。カイメンを追いかけて潜った各地の海や深海調査の風景をまじえつつ、この謎多き動物の多様な世界を紹介します。

開催日時：12月3日（金）19：00～20：30（18：30 受付開始）

開催場所：モンベルクラブ渋谷店 5F サロン

渋谷区宇田川町 11 番 5 号 モンベル渋谷ビル TEL 03-5784-4005 [>>地図](#)

参加費：800 円

定員：40 名程度(最少催行 10 名)

お申し込み方法：お電話(OWS 事務局 03-5960-3545)

またはこちらの[フォーム](#)よりお申し込み下さい。

※キャンセルされる方は必ずご連絡ください。>> [キャンセルフォーム](#)

●造礁サンゴ分布調査 荒崎探索調査(スノーケリング)

造礁サンゴ探索調査を三浦半島の荒崎海岸で実施します。今回の探索調査はスノーケリングによる調査です。荒崎での探索調査は2回目となります。前回調査では予想以上に多くのサンゴが確認でき、2回目の調査を実施することになりました。今回は前回調査で調べ切れなかった海域を中心に探索します。調査が初めての方もご遠慮なくお問い合わせください。

開催日：2010年11月21日（日） 日帰り

開催場所：神奈川県横須賀市荒崎海岸

募集人数：10名（最少催行人員5名）

集合：「荒崎海岸駐車場」11:00 集合

参加費：3,000円 ※保険料含む

対象者：スノーケリングの経験者

申込締切：11月19日（金）17時までに OWS 事務局にご連絡ください。

詳しくは、こちらをご覧ください。⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/sango/discovery.html>

●上関原発予定地の自然の価値を考える

日時：2010年11月20日（土） 14:00～17:00

場所：立教大学池袋キャンパス 12号館 2階会議室

参加無料

アクセス

○ <http://www.rikkyo.ac.jp/access/pmap/ikebukuro.html> (キャンパスへのアクセス)

- <http://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/campus.html>(キャンパス内案内図)
報告：安溪遊地（山口県立大学国際文化学部教授、日本生態学会自然保護専門委員上関アフターケア委員長）

●シンポ「内湾の機能回復のための海と陸からのアプローチ」

公開シンポジウム
内湾の機能回復のための海と陸からのアプローチ

《主催》 漁業用水問題研究会 独立行政法人水産総合研究センター、全国内水面漁業協同組合連合会、特定非営利活動法人地球環境カレッジ
《後援》 社団法人日本水産学会、社団法人日本水環境学会、社団法人農業農村工学会、応用生態工学会、海洋理工学会、水産海洋学会

日時	2010年 11月25日(木) 13:00～17:40	定員 150名 (先着順)	
会場	GEカレッジホール 東京都世田谷区駒沢3-15-1 (地図: http://www.gecollege.or.jp/gec/gec.htm)	参加費 1,000円 (資料代として)	懇親会 18:00～ 会費 2,000円 (要事前申込)
		申込締切 平成 22年11月18日(木) ※期日を過ぎてお定員未満の場合は申し込み可	申込方法 地球環境カレッジホームページ(http://www.gecollege.or.jp/)より受付

プログラム

13:00～13:10	趣旨説明	【特定非営利活動法人地球環境カレッジ 理事 平野 徹行】
13:10～13:40	1. 内湾の水質環境の現状と課題	【名城大学大学院 総合学術研究科 特任教授 鈴木 真明】
13:40～14:10	2. 内湾の物質循環機能と保全	【東海大学海洋学部 教授 中田 真三郎】
14:10～14:25	質疑応答	
14:25～14:35	休憩	
14:35～15:00	3. 陸域からの水と物質の供給	
15:00～15:25	3-1 河川を通じた土砂供給と汽水域環境	【首都大学東京 都市環境学部 都市基盤環境コース 准教授 横山 勝英】
15:25～15:50	3-2 森林からの物質供給	【九州大学大学院 農学研究院 環境農学部門 森林環境科学専攻 教授 大瀬 春一】
15:50～16:15	3-3 都市域からの物質供給	【京都大学大学院 工学研究科 附属流域圏総合環境研究センター 教授 田中 宏明】
16:15～16:30	3-4 農地からの物質供給	【農村工学研究所 水環境保全研究室 室長 白谷 栄作】
16:30～16:40	質疑応答	
16:40～17:40	休憩・準備	
	4. 総合討論(パネルディスカッション)	

【お問い合わせ】

特定非営利活動法人
地球環境カレッジ (GEC)

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢3-15-1
Tel. 03-3424-3832 Fax. 03-3424-3832
E-Mail: gyogyoyouai@gecollegeana.net
URL: <http://www.gecollege.or.jp/>

●水産海洋学会研究発表大会シンポ「鯨類を中心とした北西太平洋の海洋生態系」

日時：2010年11月21日（日） 9:00～18:00

場所：東京海洋大学 白鷹館

主催：水産海洋学会

後援：水産総合研究センター・日本鯨類研究所

コンビナー：Luis A. Pastene・藤瀬良弘・村瀬弘人（日鯨研）・宮下富夫（遠洋水研）・宮下和士（北大FSC）・加藤秀弘（海洋大）

事務局：上田真久・村瀬弘人（日鯨研）・岩崎俊秀・金治佑（遠洋水研）

【開会】挨拶：水産海洋学会長 桜井泰憲（北大院水）9:00～9:05

趣旨説明：藤瀬良弘（日鯨研）9:05～9:10

【調査・研究の概略】座長：藤瀬良弘（日鯨研）

- S01. 第二期北西太平洋鯨類捕獲調査 (JARPNII) : 調査目的と現況 Luis A. Pastene・畑中寛・藤瀬良弘・上田真久・村瀬弘人・田村 力 (日鯨研)・宮下富夫 (遠洋水研)・加藤秀弘 (海洋大) 9:10~9:35
 【鯨類の分布・資源量と食性】座長：宮下富夫 (遠水研)
- S02. 北西太平洋沖合域におけるミンククジラ、イワシクジラ、ニタリクジラの分布量 袴田高志・松岡耕二 (日鯨研) 9:35~9:55
- S03. 北西太平洋沖合域におけるヒゲクジラ 3 種の食性と環境要因の関係および餌消費量 田村力・小西健志・磯田辰也・袴田高志・木和田広司 (日鯨研)・岡本亮介 (小笠原ホエールウォッチング協会)・松岡耕二 (日鯨研) 9:55~10:15
- S04. 秋季釧路沖におけるミンククジラの成熟と摂餌生態の関係 木白俊哉・吉田英可・(遠洋水研)・田村力・小西健志・上田真久 (日鯨研)・岡本亮介 (小笠原ホエールウォッチング協会)・加藤秀弘 (海洋大) 10:15~10:35
 座長：北門利英 (海洋大)
- S05. 春季の三陸沖におけるミンククジラの摂餌生態 吉田英可・木白俊哉 (遠洋水研)・後藤睦夫・板東武治・田村力・小西健志 (日鯨研)・岡本亮介 (小笠原ホエールウォッチング協会)・加藤秀弘 (海洋大) 10:50~11:10
- S06. 北西太平洋沖合域における大型鯨類の分布 松岡耕二・木和田広司・藤瀬良弘 (日鯨研)・宮下富夫 (遠洋水研) 11:10~11:30
- S07. イワシクジラとニタリクジラの空間分布特性 佐々木裕子・齊藤誠一 (北大院水産)・松岡耕二・村瀬弘人・木和田広司 (日鯨研) 11:30~11:50
 【鯨類と餌生物の関係】座長：吉田英可 (遠洋水研)
- S08. 北西太平洋沖合域におけるミンククジラ、イワシクジラ、ニタリクジラの餌選択性 村瀬弘人・田村力・磯田辰也 (日鯨研)・岡本亮介 (小笠原ホエールウォッチング協会)・加藤秀弘 (海洋大)・米崎史郎・渡邊光 (遠洋水研)・東条斉興 (マリノフォーラム 21)・松倉隆一 (水工研)・宮下和士 (北大 FSC)・木和田広司・松岡耕二・西脇茂利 (日鯨研)・稲掛伝三・岡崎誠 (中央水研)・岡村寛 (遠洋水研)・藤瀬良弘 (日鯨研) 12:50~13:10
- S09. 秋の釧路沖でミンククジラはどこに分布し、何を好んで食べているか 渡邊光 (遠洋水研)・木和田広司・熊谷佐枝子 (日鯨研)・米崎史郎・木白俊哉 (遠洋水研)・小西健志 (日鯨研)・吉田英可 (遠洋水研) 13:10~13:30
- S10. 計量魚探による鯨類餌生物のモニタリング 宮下和士 (北大 FSC)・松倉隆一 (水工研)・東条斉興 (マリノフォーラム 21)・南憲吏 (京大フィールド研セ)・安間洋樹 (京都海洋セ)・永島宏・小野寺恵一 (宮城水技セ)・渡邊光・米崎史郎 (遠洋水研)・村瀬弘人 (日鯨研) 13:30~13:50
 座長：宮下和士 (北大 FSC)

- S11. 仙台湾における鯨類餌環境調査 小野寺恵一・永島宏（宮城水技セ）・松倉隆一（水工研）・宮下和士（北大FSC）・米崎史郎（遠洋水研）・村瀬弘人（日鯨研）
13:50～14:10
- S12. 大型動物プランクトンの日周鉛直移動に伴う物質輸送量 山口篤・花宮由理佳（北大院水産）・村瀬弘人（日鯨研）・渡邊光（遠洋水研） 14:10～14:30
- S13. 夏季の本州東方沖合域におけるカタクチイワシの摂餌生態 前原太治・青木一郎（東大院農）・米崎史郎・渡邊光（遠洋水研）・村瀬弘人（日鯨研）・山口篤（北大院水産） 14:30～14:50
- 【生態系モデル】座長：田村力（日鯨研）
- S14. 生態系を考慮した資源管理とその課題 北門利英（海洋大） 15:05～15:25
- S15. エコパス・エコシムを用いた北西太平洋の生態系モデルの構築 森光代（日鯨研）・渡邊光（遠洋水研）・袴田高志・田村力・小西健志・村瀬弘人・松岡耕二（日鯨研） 15:25～15:45
- S16. 北西太平洋における鯨類及びその餌生物中の環境汚染物質のモニタリング
安永玄太・藤瀬良弘（日鯨研） 15:45～16:05
- 【環境・系群・技術開発】座長：齊藤誠一（北大院水）
- S17. ヒゲクジラにおける遺伝的系群構造 上田真久・後藤睦夫・Luis A. Pastene（日鯨研） 16:05～16:25
- S18. ミンククジラ耳垢栓の年齢査定技術改善 前田ひかり・加藤秀弘（海洋大）
16:25～16:45
- S19. 北西太平洋外洋域におけるニタリクジラの衛星追跡 西脇茂利・大谷誠司・田村力（日鯨研） 16:45～17:05
- 【総合討論】座長：加藤秀弘（海洋大）・藤瀬良弘（日鯨研） 17:15～18:00
（懇親会） 18:30～20:30 会場：東京海洋大学品川キャンパス生協

開催趣旨

国内外を問わず、漁業への生態学的アプローチは共通の認識となりつつある。漁業への生態学的アプローチに基づく管理方法を検討する手段として、生態系モデルがオペレーティングモデルとして用いられている。鯨類は高次捕食者として、海洋生態系において重要な役割を果たしていると認識されている。しかしながら、北西太平洋において、生態系モデルに用いるための鯨類に関する定量的なデータは、十分に収集されていなかった。第二期北西太平洋鯨類捕獲調査(JARPNII)は、生態系モデルによる複数種一括管理を目標として、2000年から実施されている。JARPNIIは、プランクトンから鯨類までを網羅する、総合生態系調査であり、得られた結果から、海洋生態系における、高次捕食者としての鯨類の役割が明らかになってきた。本シンポジウムでは、多分野にわたる研究成果の発表を行い、今後の方向性を展望する。

日本財団 助成事業
The Japan Foundation

よこはま大学開港塾:APEC横浜開催関連第13回シンポジウム

環太平洋の海洋問題

主催:横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター／共催:横浜市

プログラム

◆開会挨拶(13:30).....横浜国立大学学長 鈴木 邦雄
◆来賓挨拶(13:35).....(独)海洋研究開発機構・(独)水産総合研究センター

講演1 「スパコン地球シミュレータで紐解く地球環境の変化と変動」
(13:45~14:25).....高橋 桂子
(独)海洋研究開発機構地球シミュレーションセンター・プログラムディレクター
世界の地球環境はどのように変わるか、その変化が私たちの身の周りの環境にどのような影響を与えるのか、シミュレーション予測の最先端を美しい図面でご紹介しながら、特種とご一緒に考えてみたいと思います。

講演2 「地球温暖化は海洋生態系にどのような影響を与えるか？」
(14:25~15:05).....中田 薫
(独)水産総合研究センター中央水産研究所・海洋生産部長
気候変動による温暖化と海洋酸化と生物の適応、育ち方の遅延や分布域の拡大による生態系の変化など、温暖化に伴うさまざまな生物多様性の喪失の現状とそれらに対する取り組みを報告します。

講演3 「船舶のバラスト水管理問題に対する新しい解決法の提案」
(15:05~15:45).....荒井 誠
横浜国立大学工学研究院教授
船舶のバラスト水に混入した海洋生物が、新たな適地を求めて定着し、海洋生態系への影響が懸念されます。この問題を効果的な減衰・駆除・予防の能力も必要とせず、省エネで解決する画期的な方法を提案します。

パネルディスカッション テーマ:「地域から海洋環境問題を考える」
■コーディネーター: 中原 裕幸 (横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター特任教授)
■パネリスト: 来生 新 (放送大学教授、横浜国立大学元副学長／客員教授)
■パネリスト: 古川 恵太 (国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部海洋環境研究室長)
■パネリスト: 講師3人

◆閉会挨拶(17:25~17:30).....横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター長 角 洋一
◆交流・懇親会(17:45~19:30).....会場は当日ご案内です。[参加費 3,000円・学生無料]

併催行事 「大学生・大学院生シーカヤック体験授業2010 映像・パネル展示」
[主催:横浜水辺のまちづくり協議会] 11月12日(土)12:30~13:15 (12:00開場は夕方まで)

日程
2010年
11月29日(月)
13:30~17:30
(交流は17:45~19:30)

会場
横浜市
開港記念会館
〒220-8581 横浜市西区 TEL:045-201-0708
◆お申し込みは「申込書」をダウンロード
「日本大通り」窓口、受付1号(定額券あり)
参加費無料
(お申し込みは、お電話:045-201-0708)

観覧者(予定)
神奈川県/神奈川県庁/TV神奈川/
FBS横浜/NHK横浜放送局
講師(予定)
海洋研究開発機構/
土佐学術研究所/日本海洋学会/日本水産学会/
日本水産学会/日本水産学会/日本水産学会/
日本海洋研究開発機構/
横浜水辺のまちづくり協議会

申込
横浜国立大学
開港記念会館
http://www.cosie.ynu.ac.jp
(お申し込みは045-339-3067まで)
Tel.045-339-3067
kaiyo@ynu.ac.jp

●シンポジウム「環太平洋の海洋問題」

◎日 時：11月29日(月) (13:30~17:30。終了後、懇親会)

◎場 所：横浜市開港記念会館

◎参加費：無料(ただし、交流・懇親会は会費制。学生は無料)

◎プログラム：以下のとおり。
開会挨拶・・・横浜国立大学学長 鈴木邦雄

来賓挨拶・・・(独)海洋研究開発機構／(独)水産総合研究センター

講演1：「スパコン地球シミュレータで紐解く地球環境の変化と変動」

・・・高橋桂子 海洋研究開発機構地球シミュレーションセンター・プログラムディレクター
講演2：「地球温暖化は海洋生態系にどのような影響を与えるか？」

・・・中田 薫 水産総合研究センター中央水産研究所・海洋生産部長

講演3：「船舶のバラスト水管理問題に対する新しい解決法の提案」

・・・荒井 誠 横浜国立大学工学研究院教授

パネルディスカッション：「地域から海洋環境問題を考える」—地域レベルに視点を移し、海洋の環境保全、生物多様性維持、沿岸域管理等について討議—

コーディネーター 中原裕幸 横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター特任教員 (教授)

パネリスト 来生 新 放送大学教授、横浜国立大学元副学長・同客員教授

〃 古川恵太 国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部海洋環境研究室長

〃 (講師3人)

◎交流・懇親会 (17:45~19:30) 会場は当日ご案内。[参加費：3,000円。学生無料]

◎参加申込：下記の website を通じてお申し込みください。

<http://www.cosie.ynu.ac.jp/sympo20101129.html>

【併催行事】「大学生・大学院生シーカヤック体験授業2010 映像・パネル展示」

(於：同会館1号室、12:30～) (主催：横浜水辺のまちづくり協議会)
横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター (横浜国大海センター)
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 URL：http://www.cosie.ynu.ac.jp/

● '10年日本財団助成事業

第1回「海藻おしば指導者養成講座」

- 日時：平成22年11月27日(土) 午前10:00～午後17:00
- 場所：東京・赤坂 日本財団ビル2階 第3・4会議室
- 対象：海藻おしば協会会員ならびに一般対象
- 特別講師：向井 宏氏 (京都大学フィールド科学教育研究センター特任教授)
- 講師：横浜 康継氏 (海藻おしば協会顧問)
- 講師：野田 三千代氏 (海藻おしば協会会長)

*11月4日現在の参加者は21名 (スタッフ4名+日本財団1名は除く)
*参加費¥3,500 (一般の方は他に協会入会手続きとして¥3,000)

■プログラム

- ・受付 午前09:30より (担当：入口案内ならびに教室での会費徴収)
- ・開校式 午前10:00～10:10 (進行：事務局)
*挨拶/日本財団・中村 真美子氏/横浜顧問/野田会長)

プログラム-1：10:10～11:15 特別講義

- ・話題提供 向井先生/テーマ「海の生きものを守るために」

プログラム-2：11:15～12:00 講義

- ・話題提供 涌田認定講師による「子ども向け教室のお話し」実演
- ・話題提供 横浜顧問/野田会長による「子ども対象のお話のポイント」

★12:00～13:25 昼休み・懇談 (お弁当予定/各自支払い/昼前に人数分購入)

プログラム-3：13:30～14:00 会員からの話題提供

- ・話題1：「潮汐」について/埼玉県・朝尾 紀幸氏 (実技認定講師/元海上保安庁・水路部勤務)
- ・話題2：「コンプ物語り」/北陸支部・白井 洋子氏 (認定講師/海産物問屋しら井・経営)

プログラム-4：14:10～15:30 事務局からの報告

- ・話題3：相川認定講師による「HPのブログの掲載方法」について
- ・話題4：野田会長による「COP10/生物多様性交流フェア」に参加して

プログラム-5：15:35～16:25 質疑応答

プログラム-6：16:30～17:00 閉校式・記念写真・後片付け・解散

●夜の三番瀬探検隊

～夜の干潟の生き物や鳥たちは～

- 日 時 2010年11月21日(日)
- 場 所 ふなばし三番瀬海浜公園
- 集 合 ふなばし三番瀬海浜公園 アカエイ看板前 20時20分
- 解 散 23時(午後11時) ころに現地。車でない方は西船橋まで送ります。
- 交 通 バスは京成船橋駅前発 19:25 が最終、J R二俣新町駅から徒歩30分。
- 案 内 夜、三番瀬の干潟の生き物はどのようにしているのでしょうか？ ミヤコドリ、ハマシギ、セグロカモメ、スズガモなどは夜間にさかんに餌をとっています。カニや魚などの夜の活動も観察してみましよう。
- 持ち物 防寒具、懐中電灯、長めの長靴。参加費無料。
- 注 意 小、中学生は保護者同伴。車で参加される方はご連絡ください。夜の観察会のため、各自の責任においてご参加ください。
- *要予約 申し込み：047-434-9824(田久保)
- 主 催 千葉県野鳥の会

●谷津干潟自然観察会

- 期 日 2010年11月21日(第3日曜日) 雨天中止
- 集 合 津田沼高校前バス停 午前10時
- 交 通 J R津田沼駅南口から新習志野駅行または幕張本郷行き京成バスで津田沼高校前下車。
- 案 内 いよいよ冬鳥のシーズンです。ハマシギやダイゼンなど越冬するシギ・チドリ類、ユリカモメの群れ、カモ類など干潟にはたくさんの鳥たちがきています。近年、オオタカなどの猛禽類が頻りに現れるようになりました。今年もズグロカモメは来てくれるでしょうか？北風が吹くと寒いので、防寒はしっかり！
- 持ち物 観察用具、昼食、参加費200円。
- 担 当 飯島、斉藤(047-432-9416)
- 主 催 千葉県野鳥の会

●みんなの力で守ろう三番瀬！の集い

2010年11月30日(火)

◆第1部 18:00～19:30

三番瀬コンサート ～ 里山から里海まで ～

特別出演：山本リンダ／邦楽演奏／よさこい明日風／船橋手拍子音頭／東葛合唱団(関さんの森ミュージカル)／千葉合唱団(三番瀬の歌)

◆第2部 19:30～21:00

三番瀬シンポジウム~ どうして今三番瀬をラムサール条約湿地に登録するのか?~
基調講演：倉板秀史／コーディネーター：佐野郷美(市川緑の市民フォーラム)／
パネラー：大野一敏(船橋漁協組合長)他

●映画『祝の島』上映会

○日時：11月16日（火）

会場：[shinjuku House cafe&bar](#)(東京都新宿区新宿5-17-6 中田ビル2階)

時間：19:00～OPEN 19:30～START(終了後、皆でトーク:おこたの時間開催)

料金 ¥1,600

○11月17日(水)



「祝島から見える“いのち”の営み — 瀬瀬あや監督をお迎えして —」

場所：[聖学院大学](#)・人間福祉学科7号館 7401室
11:00～12:30

■映画◆祝の島(ほうりのしま)◆藤野・上映会 (芸術の小径)

12月18日(土)・19日(日)と藤野で2回の上映会。

上映後、おこたを囲む会も・・・

瀬瀬(はなぶさ)あや監督と、

映画のちらしの絵を描いた西村繁男さん(藤野在住)も

出席されます。

小さな日々の暮らしを大切にする想いを、もう一度見直すいい機会となりそうです。

【近畿】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

場所：神戸元町映画館（神戸市中央区元町通 4-1-12）

11月6日(土)～11月19日(金)

11月13日(土)～11月19日(金)→14:40

●東条雅之 祝島写真展

11月16(火)～21日(日) →[てんつくゲストハウス](#)

11月23(火祝)～28日(日) →[じょんのび](#)

●映画「祝の島」上映会

日時：11月20日（土）14:00～

会場：花園大学自適館 300 番教室（京都市中京区）

問い合わせ先：075-822-2830（京都民医連中央病院地域連携室 甲田）

●上関・長島の自然 写真展（カルチャーガーデン吉田の森）

日時：11月18日（木）～30日（火）10:00～18:00



場所：カルチャーガーデン吉田の森

（京都市左京区吉田中大路町1-7-1 鈴木文化会館1F）

■祝島写真展（音楽日記）

11月23日（火）～28日（日）は、有田川町のじょんのびさんでも行われます。

9時～17時。びわ茶販売有り。

27日（日）は、和歌山市内で行われる環境フォーラムの祝島ブース内で展示を行っています。

●奈良女子大学共生科学研究センターシンポジウム

紀伊半島周辺の水生動物—その歴史と現況—

日本動物学会近畿支部秋季講演会・第14回紀伊半島研究会シンポジウム

「シーボルト標本に見る近畿地方の水辺の原風景」細谷和海（近畿大学農学部）

「紀伊半島の水生昆虫—東アジアの地史と生物進化の試論」谷田一三（大阪府立大学理学研究科）

「高緯度域に生息する造礁性イシサンゴ類の種特異性」深見裕伸（宮崎大学農学部）

「温暖化？かわりゆく紀伊半島沿岸の魚たち」平嶋健太郎（和歌山県立自然博物館）

期日：平成22年11月27日（土）13時～17時

会場：奈良女子大学記念館（近鉄奈良駅を北に徒歩5分）

問い合わせ先：630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学共生科学研究センター
Tel.& FAX 0742-20-3687 または 0742-20-3415 (和田)

共催：日本動物学会近畿支部会・紀伊半島研究会・奈良女子大学共生科学研究センター

【中四国】

●2010年秋“虹のパレード”

11月27日(土) 午前11時～ 山口県庁前庭集合

全国から上関原発をやめてほしい!という300枚以上集まった布メッセージ。この思いが込められた布メッセージを持って市内を1時間ほど歩きます。一緒に歩きませんか?

ゆるゆるつながりトーク&ライブ

日時 11月27日(土) 午後3時30分～午後6時30分

場所 “まなまな” 美祿市美東町真名445

電話 0839-65-0896

出演 源の助、en.(エン) その他

参加費 カンパ

※カレーなどの飲食販売は行っています。

お問い合わせ：ゆるゆるつながりネットワーク

村川博司 TEL090-2862-1367 メール hiro2361@hotmail.com

まなまな TEL0839-65-0896

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

★11月20日(土)～11月27日(金)

11月22日(火) 鎌仲監督、舞台挨拶!

会場：シネマ尾道

尾道市東御所町6-2 0848-24-8222 <http://www.cinema-onomichi.com/>

●映画「祝の島」上映会

会場：東広島市中央公民館小ホール(3F)

日時：11月28日(日) 10:00～ ; 14:00～

問い合わせ先：082-422-3004 ひがしひろしま上映実行委員会

【九州】

●「有明海の特異な生物相―諫早湾の環境復元の意義―」 有明海の生物多様性保全のための四学会合同シンポジウム

日本の他の海では見られない生物がたくさん生活しているかけがえのない内海、有明海。

その奥部の広大な泥干潟を閉めきった諫早湾の干拓事業について、生物研究者の4学会は、事業の中止・中断、諫早湾の現状復帰、あるいは長期開門調査の実施などを求める要望書を提出しています。その内容を紹介し、生物多様性保全の視点から、諫早湾の環境復元の意義を論じます。

日時：2010年11月27日（土）13:30～16:30

会場：諫早市民センター講堂（長崎県諫早市東小路町8-5, TEL：0957-23-1160）

参加費：500円（資料代）

主催：日本魚類学会、日本生態学会、日本ベントス学会、軟体動物多様性学会保全委員会
プログラム

はじめに 「学会からの要望書提出の経緯」 佐藤正典（鹿児島大学）

講演「有明海の魚類相」 山口敦子（長崎大学）

講演「有明海の貝類相」 福田 宏（岡山大学）

講演「諫早湾閉めきり以降の有明海奥部の底生生物相の変化」 佐藤慎一（東北大学）

特別講演「韓国スンチョン市での干潟保全の取り組み」

チェ・ドクリム（スンチョン市経済環境局長）

コメント「生物多様性条約に基づく国の政策」 国会議員（氏名未定）

問い合わせ先： 日本ベントス学会自然環境保全委員会 諫早湾問題検討委員会

佐藤慎一（TEL：022-795-6771; eメール：kurosato@mail.tains.tohoku.ac.jp）または

佐藤正典（TEL：099-285-8169; eメール：sato@sci.kagoshima-u.ac.jp）

●海洋博研究センター サンゴシンポジウム ⑤

「サンゴの移植 —移植片の準備・移植とモニタリング・MPA—」

趣 旨

沖縄のサンゴ礁は、サンゴの白化現象、オニヒトデなどによる食害、陸上からの流入物およびサンゴ礁における人間活動などによって荒廃し、その総合的資源価値が減少している。多くの人がそれぞれの思いで海岸や海中の清掃やサンゴの移植などを行って、サンゴ礁の保全に取り組んでいる。サンゴ礁保全には、政府や地方行政主導、会社やNPO、漁業者その他の任意団体および試験研究を含む個人的取り組みなどさまざまなものがある。

名桜大学総合研究所では、サンゴ群集の保全・再生・創出活動の一つとしてサンゴの移植に焦点をあて、それに関わる諸問題を議論し、将来への展望を探るシンポジウムを、2006年以来これまで3回開催したが、2009年の4回目からは海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センターが主催して、タイ国とインドネシアから研究者と実践家の協力を得て、国際シンポジウムを開催した。

2010年は、生物多様性に関わるCOP10の開催もあり、サンゴ礁の保全の機運がこれまで以上に高まりを見せている中で、漁業者自らが漁場であるサンゴ礁生態系の保全に関わる支援事業がスタートした。これらのことを念頭に置いて、第5回目に当たる今回のシンポジウムは、昨年に

引き続きインドネシアからサンゴ礁保全事業に参画した専門家と自らサンゴ礁保全活動を推進している漁民チームのリーダーを招いて基調講演を依頼して行われる。また、沖縄でサンゴ礁の保全活動に関わっている個人・NPO・漁業者および行政など、さまざまな立場から広く話題提供者を迎えて、保全への取り組みの技術的発展、移植などの実施とモニタリング、海洋保護区設定の重要性や資源保護の法的施策などに関する学習と論議を深めたい。併せて、参加者によるパネルやポスターの展示、パンフレットなどの配布を歓迎し、情報交換と発信、幅広い交流ができるような場を設定する。

このような試みを通して、移植を主としたサンゴ礁保全へのそれぞれの取り組みや問題点、将来に対する展望などを議論し合い、広く知識と経験および成果と問題を共有し、今後の取り組みの展開に資すべく、いろいろな考えや取り組みの当事者達が議論するための場をつくりたいと考えている。

主催：(財) 海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター

共催：名桜大学総合研究所

後援：沖縄県文化環境部・沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全委員会

日時：2010年12月10日(金) 10:00～16:30

場所：海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター視聴覚室・会議室

対象と定員：サンゴ礁保全に関心のある方々・定員70名

参加費：無料

プログラム

コーディネーター：西平守孝（海洋博研究センター）

基調講演：(60分)

① Rahmadi Prasetyo (Bangun Citra Pesisir Co. Ltd. 沿岸開発企画コンサルタント)：

インドネシアにおけるサンゴ移植活動の非成功例から学ぶこと

② I Wayan Patut (バリ・セラランガン漁民グループ代表)：海中の保全活動に

よってセラランガン島を取り戻す

移植片の種苗生産(1)(60分)

① 岡田 敏(沖電開発(株))：移植サンゴの種苗生産

② 比嘉義視(恩納村漁協)：サンゴの種苗生産・移植・モニタリング

③ 金城浩二(海の種)：サンゴの畑とサンゴの種苗生産

移植片の種苗生産(2)(60分)

④上原 直 (グローイングコーラル) : 市民ベースのサンゴ礁保全活動について

⑤下條 武 (沖縄県水産課) : 沖縄県漁業調整規則 : サンゴの採捕と移植に関する解説

海洋博研究センター サンゴシンポジウム ⑤

サンゴの移植
— 移植片の準備・移植とモニタリング・MPA —

パネル・ポスターなどの展示 10:00~16:30
(会議室・会場ロビー)
サンゴ礁保全やサンゴの移植活動に関連した取り組みなど、パネルやポスター・パンフレット・標本などの展示も可能です。展示やパンフレットなどの配布をご希望の方は、開始前に各自ご準備頂き、活動の紹介や宣伝あるいは情報交換・国際交流にご活用下さい。

日時 : 2010年12月10日 (金)
10:00~16:00
会場 : 海洋博覧会記念公園管理財団
総合研究センター視聴覚室
参加費 : 無 料

事前申し込み : 定員約70名



コーディネーター : 西平守孝 (海洋博研究センター)
基調講演 : (60分)
① Rahmadi Prasetyo (Bangun Citra Poinir Co. Ltd. 沿岸開発企画コンサルタント) : インドネシアにおけるサンゴ移植活動の非成功例から学ぶこと
② I Wayan Patut (バリ・セララン島漁民グループ代表) : 海中の保全活動によってセララン島を取り戻す
— 休憩10分 —
移植片の育苗生産(1) (60分)
① 岡田 敏 (沖縄興業(株)) : 移植サンゴの育苗生産
② 比嘉義規 (恩納村漁協) : サンゴの育苗生産・移植・モニタリング
③ 金城浩二 (海の魂) : サンゴの畑とサンゴの育苗生産
— 昼食50分 —
移植片の育苗生産(2) (60分)
④ 上原 直 (グローイングコーラル) : 市民ベースのサンゴ礁保全活動について
⑤ 下條 武 (沖縄県水産課) : 沖縄県漁業調整規則 : サンゴの採捕と移植に関する解説
⑥ 西平守孝 (海洋博研究センター) : 自然への負荷の少ない移植片の準備
— 休憩10分 —
モニタリングと海洋保護区 (60分)
⑦ 魚田夏紀 (チーム奥らサンゴ) : サンゴの移植—長期的取り組み
⑧ 藤原秀一・毛塚大輔 (いであ) : 着床具サンゴの移植とモニタリング
⑨ 鹿熊信一郎 (沖縄県) : サンゴ礁海域における海洋保護区(MPA)
— 休憩10分 —
総合討論 : 40分
司 会 : 中野義勝 (琉大・熱生圏・瀬底研究施設)

主催 : 海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター
共催 : 名桜大学総合研究所
後援 : 沖縄県文化環境部・沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全委員会
●参加申し込みとお問い合わせは下記まで:
海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター普及開発課 担当: 篠原礼乃・高 英昭
電話: 0980-48-2266 (午前9時~午後5時) ファクス: 0980-48-2200
E-メール: oerc@kaiyohaku.or.jp (メールの件名は サンゴシンポ とお書き下さい)

⑥西平守孝 (海洋博研究センター) : 自然へ負荷の少ない移植片の準備

モニタリングと海洋保護区 (60分)

⑦魚田夏紀 (チーム奥らサンゴ) : サンゴの移植—長期的取り組み

⑧藤原秀一・毛塚大輔 (いであ) : 着床具サンゴの移植とモニタリング

⑨鹿熊信一郎 (沖縄県) : サンゴ礁海域における海洋保護区 (MPA)

総合討論 : 40分

司 会 : 中野義勝 (琉大・熱生圏・瀬底研究施設)

パネル・ポスターなどの展示 10:00~16:30 (会議室)

サンゴ礁保全やサンゴの移植活動に関連した取り組みなど、パネルやポスター・パンフレット・標

本・ビデオなどの展示。展示やパンフレットなどの配布希望者が、シンポジウム開始前に各自会場に準備して、活動の紹介や宣伝あるいは情報交換に活用。

参加申し込みとお問い合わせは下記まで:

海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター普及開発課 担当: 篠原礼乃・高 英昭
電話: 0980-48-2266 (午前9時~午後5時), ファクス: 0980-48-2200
E-メール: oerc@kaiyohaku.or.jp (メールの件名は サンゴシンポ とお書き下さい)

4. 事務局便り:

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

5. 編集後記

紅葉の時期になりました。京都のモミジも一段と色づき始め、なんとなく街がざわめいているようです。北海道にいる頃、ときどき見に行ったアッケシソウ群落の紅葉が、瀬戸内海でもまだ見られるところが残っていることに感動しました。入り浜式塩田は私の子どもの頃の記憶と繋がっていますが、もうすっかりなくなってしまったと思っていました。しかし、塩田の機能はなくなっても、塩性湿地として残っているところがあるんですね。ぜひとも自然の力に依存した干潟の再生に取り組んでもらいたい。入り浜式塩田はかつての文化遺産でもあります。そこに生育するアッケシソウは、かつての人と海とのつながりを象徴するものでもあります。そんな懐かしい風景を少しは残したいと思います。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を

保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第69号

2010年11月16日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1

グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会